

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 27 日現在

機関番号：13101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26381183

研究課題名(和文) 読者反応理論に基づく国際標準を反映した児童・生徒・教員用読書力評価パッケージ開発

研究課題名(英文) Development of reading assessment package with international standards for students and teachers based on reader response theory

研究代表者

足立 幸子 (Adachi, Sachiko)

新潟大学・人文社会・教育科学系・准教授

研究者番号：30302285

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、国際読書力評価を参照し、読書力評価パッケージを開発することを目的とした。評価パッケージは、テストと読者反応の質的分析の要素で構成されている。

テストについては、PISA、PIRLS、全国学力・学習状況調査、新潟県小学校教育研究会学習指導改善調査、Reading Inventory やFountas & Pinnell Benchmark Assessment System を研究した。また読書10問テストを作成した。質的分析に関しては、諸外国の発問・ワークシート評価、ポートフォリオ評価、パフォーマンス評価、音読評価を参照し、交流型読み聞かせ、パートナー読書、読者想定法を開発した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research was to develop some assessment packages of reading by referring to international reading assessments. The packages consist of tests and qualitative analysis of reader-response.

I researched some international and national tests of reading: PISA, PIRLS, National Test in Japan, a test of elementary school in Niigata, Reading Inventory, Fountas & Pinnell Benchmark Assessment System, and 10 question tests. I also referred to assessments by reader-response of teacher question, worksheets, Portfolio Assessment, Performance Assessment, and DEBELS. I introduced and developed Interactive Read-Aloud, Partner Reading, and Invested-Reader Response in Japan.

研究分野：教科教育学

キーワード：読書力評価 ルーブリック 読者反応 読書力テスト 交流型読み聞かせ パートナー読書 読者想定法

1. 研究開始当初の背景

OECDの国際学力調査PISAにおける読解力得点の低下を受けて、日本では全国学力・学習状況調査が行われ、全国規模で国語学力の評価が行われるようになった。平成20年年3月に改訂された学習指導要領においても、読書活動の充実が強調されている。この改訂を受けて、小学校では平成23年度、中学校では平成24年度、高等学校では平成25年度に国語教科書も改訂され、これまでに読書活動に関するページが増えてきている。(この傾向は、小学校の平成27年度、中学校の平成28年度の教科書改訂でも継続されている。)

以上の背景において、国語科教育の中で読書活動を確実にを行い、その成果を測定し、次の指導に生かしていくような読書力評価を開発することは、非常に重要になってきている。

2. 研究の目的

本研究の目的は、諸外国で行われている読書力評価を参考にし、日本の学校現場で児童・生徒・教師が使用できる読書力評価パッケージを開発することを目的とした。評価パッケージは2つの要素で構成されている。1つは、テストの形式に代表される量的な方法であり、もう1つは、読者反応や読書交流を質的に分析する方法である。

3. 研究の方法

本研究の方法としては、大きく分けて3つのアプローチがある。

1つ目は、国際テストや諸外国で使用されているテスト・評価法及び様々な読書指導法を研究することである。

2つ目は、そのように外国で行われている評価を我が国で使用するとしたらどのように使用できるかを研究することである。特に質的分析法については、評価する読者反応や読書交流をどのように引き起こすかという問題を含んでおり、読書指導法自体を開発していく必要もある。

3つ目は、実際に児童や生徒に対してその指導法と評価法を試してみる実験的研究である。

4. 研究成果

テストについては、まずは、国際テストとしてPISA、PIRLSを研究した。PISAは3年ごとに実施されており、2009年からコンピュータを用いたデジタル読解力も含まれるようになった。我が国の生徒の読解力は、2012年は比較的高い成績であったが、2015年で有意に低い成績となっており、引き続きPISAのテストを調査・検討していく必要がある。また、PISAではテストに合わせて、読書の「取組」を質問紙調査の形で評価している。このことも、読書の非認知的側面の評価として手掛かりになる。PIRLSは我が国では実施され

ていないが、小学校4年生レベルのIEA実施のテストである。引き続き、国際テストの動向を調査していくことが重要である。これらの国際テストに対して、国内テストとして、アメリカのNAEP、我が国の全国レベルのテストである全国学力・学習状況調査を検討した。NAEPはPISAの影響を受けて2009年に読書の枠組みを変更している。このように、国際テストの動向を踏まえて、国内テストの特徴を捉えていくことは重要である。全国学力・学習状況調査では、NAEPに比べると、学習指導要領の指導事項に合わせてテストが作成されているため、読書力評価としては不十分な点があることも確認された。さらに、自治体レベルのテストである新潟県小学校教育研究会学習指導改善調査の特徴について明らかにした。このテストは、学習指導改善を前提としており、評価の結果を用いて授業を構想することが提案されていた。

海外のテストとしては、音読・語彙・読解などを含んだ総合的な読書力テストであるインベントリー評価(Qualitative Reading Inventory-5 など)やベンチマーク評価(Fountas & Pinnell Benchmark Assessment System)を研究した。いくつかの性質の異なるテスト・評価を組み合わせていくことは、本研究の読書力評価パッケージという概念に適合する。また、PISA以外にも、読書の非認知側面である読書への取組をアメリカでは質問紙調査で測定していることが分かり、その質問内容を整理したり、我が国の読書調査と比較したりした。

実際のテスト開発としては、質問紙調査の他に、本を読んだ後に10問の設問に解答させる10問テストを作成した。本研究では初めて高校生のレベルでの作成を試み、ジャンルも広げて、知識の本、小説、古典文学を取り上げた。その結果、ジャンルによってテストの作り方が大きく変わってくることを確認できた。ジャンルと合わせて読書力評価を扱っていくことについては、今後の課題である。

読者反応や読書交流の質的分析に関しては、まず、アメリカで定番の読書力評価として、教師の発問に対する反応やワークシートに書き込まれた反応の評価の仕方を研究した。その際、発問の枠組みや、ワークシートの形式・項目が重要になってくることが理解できた。また、ポートフォリオ評価、パフォーマンス評価、音読評価などを研究した。音読評価は我が国の読書力評価として取り上げられることはほとんどないが、音読自体は国語科教育でよく取り上げられており、評価という観点から考えて見ると、音読指導の改善は様々な考えられることが分かった。

読書反応や読書交流の場面を生み出すことに関しては、アメリカの読書指導法を参照し、交流型読み聞かせ、パートナー読書(特にパートナーと同じ本を読んで様々な交流をするもの)、読者想定法などの指導法を我

が国でも使用できるような形で導入・開発した。

読者反応や読書交流を実際に評価することについては、小学校2校で2種類のパートナー読書の授業を実施してもらい、そこに現れた児童の読者反応について、ループリックを設定すれば評価していけることを、実験的研究として明らかにした。また、読者想定法について、小学校1校で授業を実施してもらい、ループリックという形でなくともある程度の観点があれば、読者反応を評価できることを示した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計21件)

足立幸子、ノンフィクションの様々なジャンルを用いた読者想定法 メディア・リテラシーのコア概念による分析、新潟大学教育学部研究紀要人文・社会科学編、査読無、9(2)、2017、195-295.

足立幸子、交流を生かした読書指導 アメリカにおけるIn2Booksの2003年頃の活動を例として、新潟大学教育学部研究紀要人文・社会科学編、査読無、9(1)、2016、1-9.

足立幸子、読者想定法を使用した説明的文章の指導 「フリードルとテレジンの小さな画家たち」の読者反応に着目して、人文科教育研究、査読有、43、2016、15-27.

足立幸子、読者想定法によるノンフィクションの読書指導、新潟大学教育学部研究紀要人文・社会教育科学編、査読無、8(2)、2016、133-141.

足立幸子、読解力評価 自信が持てる観点と技法(最終回)信頼性・妥当性など読解力評価における重要な概念と問題、教育科学国語教育、査読無、795、2016、104-107.

足立幸子、読解力評価 自信が持てる観点と技法 様々なテストの利用(3)新潟県小学校教育研究会学習指導改善調査、教育科学国語教育、査読無、794、2016、104-107.

足立幸子、読解力評価 自信が持てる観点と技法 様々なテストの利用(2)全国学力・学習状況調査、教育科学国語教育、査読無、793、2016、104-107.

足立幸子、読解力評価 自信が持てる観点と技法 様々なテストの利用(1)国際学力調査PISAとPIRLS、教育科学国語教育、査読無、792、2015、104-107.

足立幸子、読解力評価 自信が持てる観点と技法 音読を使用した評価、教育科学国語教育、査読無、791、2015、104-107.

足立幸子、国語科学学習指導要領における読書指導の位置づけと課題、新潟大学教育学部研究紀要人文・社会教育科学編、査読無、8(1)、2015、1-11.

足立幸子、読解力評価 自信が持てる観点と技法 ループリックの作成方法、教育科学国語教育、査読無、790、2015、104-107.

足立幸子、読解力評価 自信が持てる観点と技法 活用場面での読解力を評価するパ

フォーマンス評価、教育科学国語教育、査読無、789、2015、108-111.

足立幸子、読解力評価 自信が持てる観点と技法 証拠に基づいて評価するポートフォリオ評価、教育科学国語教育、査読無、788、2015、108-111.

足立幸子、読解力評価 自信が持てる観点と技法 インベントリー評価で読解力の諸要素を総合的に評価する、教育科学国語教育、査読無、787、2015、108-111.

足立幸子、読解力評価 自信が持てる観点と技法 読解力の非認知的要素を質問紙で評価する、教育科学国語教育、査読無、786、2015、112-115.

足立幸子、読解力評価 自信が持てる観点と技法 授業中の発問・ワークシートで、関心・意欲・態度を評価する KWL を例として、教育科学国語教育、査読無、785、2015、112-115.

足立幸子、読解力評価 自信が持てる観点と技法 発問の種類から読解力評価を考える QAR を中心に、教育科学国語教育、査読無、784、2015、112-115.

足立幸子、想定する読者の読者反応によるノンフィクションを読むことの指導 Jean Anne Clydeらの吹き出し法(subtexting)を手かがりとして、新潟大学教育学部研究紀要人文・社会教育科学編、査読無、7(2)、2015、195-205.

足立幸子、読者反応を利用した小集団の読書指導におけるループリック評価の試み、新大国語、査読有、37、2015、17-37.

足立幸子、交流型読み聞かせ、新潟大学教育学部研究紀要人文・社会教育科学編、査読無、7(1)、2014、1-13.

②足立幸子、アメリカにおける精読指導論、月刊国語教育研究、査読無、509、2014、36-37.〔学会発表〕(計11件)

足立幸子、読むこと・読書の認知的及び非認知的側面の調査、全国大学国語教育学会第132回岩手大会、2017年5月28日、岩手大学

足立幸子、ジャンルに焦点をあてたノンフィクションの読書指導、全国大学国語教育学会第132回岩手大会、2017年5月27日、岩手大学

足立幸子、シンポジウム学校図書館への研究的アプローチ「読書に関する研究方法」、2016年11月13日、第64回日本図書館情報学会研究大会、天理大学

足立幸子、メディアリテラシーと連動した読者想定法、全国大学国語教育学会第131回東京大会、2016年10月16日、白百合女子大学

足立幸子、翻訳絵本の読者反応に影響する前提的要因 友達の絵本の日米比較研究、日本読書学会第60回研究大会、2016年8月7日、林野会館

足立幸子、読者想定法を使用した説明的文章の指導 「フリードルとテレジンの小さな

画家たち」を題材として、全国大学国語教育学会第130回新潟大会、2016年5月29日、新潟大学

足立幸子、「読むこと」の評価をめぐって、新潟大学教育学部国語国文学会平成27年度研究大会、2016年2月6日、新潟大学

足立幸子、国際学会における翻訳絵本の比較研究『ローズ・プランチュ』を中心に、平成27年度日本教育大学協会北陸地区大会国語科・書道科合同研究協議会、2015年9月28日、新潟大学

足立幸子、読者反応に基づく読書指導の方法、全国大学国語教育学会第127回筑波大会、2014年11月9日、筑波大学

足立幸子、読者反応を利用した小集団の読書指導及びその評価、日本読書学会第58回研究大会、2014年8月3日、林野会館

足立幸子、読者反応に基づく読書の指導と評価、全国大学国語教育学会第126回名古屋大会、2014年5月17日、愛知県産業労働センター

〔図書〕(計1件)

青山浩之、浅田孝紀、足立幸子ほか、高木まさき・寺井正憲・中村敦雄・山元隆春編『国語科重要用語事典』明治図書、全279(執筆部分「14 読解力・読書力」25、「17PISA」28、「110 連続型テキスト・非連続型テキスト・混成型テキスト・複合型テキスト」124)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

足立 幸子 (ADACHI SACHIKO)

新潟大学・人文社会・教育科学系・准教授
研究者番号：30302285

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし

(4) 研究協力者

なし